

## (商品別輸出)

2013年11月28日(木)

品目	2012年度 (実績)		2013年度 (見込み)				2014年度 (見通し)		コメント		
	10億円	伸び率%	上半期		下半期		10億円	伸び率%	10億円	伸び率%	
			(実績)	伸び率%	(見込み)	伸び率%					
<b>総額</b>	63,941	▲2.1%	35,320	+9.8%	34,861	+9.7%	70,180	+9.8%	↑ 73,033	+4.1%	
EX01 食料品	366	+7.2%	216	+24.6%	228	+18.2%	444	+21.2%	↑ 476	+7.2%	魚介類、野菜を中心に日本産品に対する各国の輸入規制が続いているものの、円安による数量・価格の押し上げにより金額は増加。
EX02 原料品	1,112	+13.5%	604	+15.6%	582	▲1.3%	1,186	+6.7%	→ 1,183	▲0.2%	金属鉱及びびくずは、国内での需給が逼迫(ひっばく)し価格が上昇。アジアを中心に海外からの引き合いは弱い。下半期にかけて金額は減少。 生ゴム(合成ゴム)は原料価格の上昇、円安による競争力の回復を背景に、輸出比率を上昇させる傾向にあり、金額は増加。 織物用繊維及びびくずは、ポリエステル・アクリル短繊維を中心に、中国、欧州での需要低迷により数量が減少するものの、円安による価格の上昇により金額は増加。
EX03 鉱物性燃料	1,078	▲6.6%	892	+52.8%	499	+1.0%	1,392	+29.1%	↓ 1,158	▲16.8%	円安を追い風に増加を見込む。ただし、下半期に関しては冬場の国内需要を優先するため増加幅は縮小。
EX04 化学製品	6,578	+0.3%	3,785	+19.0%	3,892	+14.5%	7,677	+16.7%	↑ 8,016	+4.4%	エチレン等の基礎化学原料の数量が大幅に増加、また、円安を背景とする価格全般の上昇ゆえ輸出金額は大幅に増加。ただし、数量の増減は品目別の差が著しい。
EX05 原料別製品	8,554	▲1.3%	4,679	+8.1%	4,602	+8.9%	9,280	+8.5%	↑ 9,695	+4.5%	メーカーの海外生産シフト、および出荷先の現地調達拡大により数量の増加は限定的であるが、円安に伴い価格は上昇し、金額も増加。
鉄鋼	3,519	▲2.9%	1,937	+7.9%	1,913	+10.9%	3,850	+9.4%	↑ 4,019	+4.4%	アジア需要は増加傾向にあるが、内需も堅調で数量は横ばい。中国、韓国の供給過多状況により市況は低迷が続くが、円安の影響で金額は増加。
非鉄金属	1,318	+2.4%	708	+11.7%	706	+3.1%	1,414	+7.3%	↑ 1,464	+3.5%	メーカー各社による生産拠点の海外移転に伴い数量が減少しているものの、円安に伴う価格の上昇により、金額は増加。
織物用糸・繊維製品	614	▲3.0%	337	+8.2%	320	6.0%	657	+7.1%	↑ 684	+4.1%	海外進出した取引先メーカーによる現地調達比率の引き上げが逆風となっているものの、円安に伴う単価上昇、および競争力回復を通じた数量下げ止まりにより、増加に転じる。
非金属鉱物製品	863	▲3.7%	450	+1.1%	405	▲3.4%	854	▲1.1%	↑ 865	+1.2%	ガラスは、アジアにおける需要鈍化やメーカー側の生産拠点移転により、数量が減少。ディスプレイ用ガラス等を中心に価格も下落し、金額は減少。 セメントは、復興需要を背景に国内需給が逼迫。価格は上昇傾向にあるものの輸出余力が限られるため、金額の伸びは鈍化。
EX06 一般機械	12,597	▲8.4%	6,694	+3.9%	6,729	+9.3%	13,424	+6.6%	↑ 14,000	+4.3%	世界経済の減速に歯止めがかかることや、円安による価格上昇を主因に増加に転じる。
原動機	2,289	▲1.6%	1,244	+11.4%	1,236	+5.5%	2,480	+8.3%	→ 2,460	▲0.8%	車両用エンジン等の内燃機関メーカーの海外生産シフトにより数量は減少を見込むが、円安による価格押し上げにより全体では増加。
EX07 電気機器	11,315	▲2.0%	6,180	+6.6%	5,900	+6.9%	12,080	+6.8%	↑ 12,630	+4.5%	円安効果に加え、世界経済の回復を見越した海外企業の設備投資もあり増加。
半導体等電子部品	3,314	▲4.6%	1,859	+10.9%	1,800	+9.9%	3,659	+10.4%	↑ 3,850	+5.2%	スマートフォンやタブレット型端末以外の最終需要が弱く、世界市場は横ばいだが、円安効果によりメモリなどが増加。
電気計測機器	1,241	+1.6%	668	+3.9%	650	+8.6%	1,318	+6.2%	↑ 1,438	+9.1%	円安のほか、半導体メーカーなどによる世界経済の回復を見越した設備投資の活発化もあり、伸びが高まる。
EX08 輸送用機器	14,967	+4.0%	8,139	+7.9%	8,220	+10.8%	16,359	+9.3%	↑ 16,986	+3.8%	円安効果を主因とした自動車の増加により、伸びが高まる。ただし、船舶は減少幅が拡大。
自動車	9,163	+7.2%	5,249	+14.5%	5,318	+16.2%	10,567	+15.3%	↑ 11,093	+5.0%	3割を占める米国向け輸出が景気回復に伴い増加。中国向けも2012年度下半期の大幅減少の反動で大幅増。EU、ASEAN向けは数量では微減となるが、円安効果により金額では増加。
自動車の部分品	3,241	+6.3%	1,754	+6.3%	1,757	+10.4%	3,511	+8.3%	↑ 3,634	+3.5%	中国向けが2012年度の大幅減の反動で増加。その他は数量では減少するが円安効果により金額では増加。
船舶	1,689	▲15.2%	658	▲27.1%	615	▲21.8%	1,273	▲24.6%	→ 1,282	+0.7%	リーマン・ショック後の受注分が受け渡しとなるため、出荷数量そのものが低水準であるうえ、顧客から納期延長を求められ、各社ともに建造開始が遅れる傾向。
EX09 その他	7,373	▲6.6%	4,131	+15.1%	4,208	+11.2%	8,339	+13.1%	↑ 8,889	+6.6%	円安を背景として、約4割を占める再輸出を中心に増加。3割弱を占める科学光学機器も増加に転じる。
科学光学機器	2,106	▲0.3%	1,120	+5.6%	1,109	+6.0%	2,229	+5.8%	↑ 2,285	+2.5%	主に液晶関連分野が米国、中国向けを中心に増加。

\*金額はそれぞれ 四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

\*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表す。